

安達地方における特産アサツキの経営的性格

八 巻 聰・菅 野 正

(福島県農業試験場)

Character from Agricultural Management of Speciality

Allium schoenoprasum L. in Adachi District

Satoshi YAMAKI and Tadashi SUGENO

(Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

本報告は、経営診断指標作成のため露地野菜経営の実態を調査したが、そのなかから安達地方におけるアサツキを取り上げ、その作物の受容する経営手段の利用性ならびに収益性を主な指標として経営的性格を検討し、明らかにしたものである。

2 県内のアサツキ栽培状況

アサツキは、県北の安達地方と会津の高郷村などで栽培され、面積は約12haと推定される。なかでも安達地方の安達町と二本松市においては8ha程栽培されており県内ではアサツキ栽培の最も盛んな地方である。

3 安達地方におけるアサツキ栽培の概況

安達地方におけるアサツキ栽培の歴史は古く、従って、現在栽培している農家はかなりの経験を積んできている。

1 輪作体系

アサツキは桑の間作としての作付けもみられるが、バレイショ-アサツキの体系が一般的である。夏秋キュウリとの体系もみられるが、この場合、アサツキの植付けが9月上〜中旬と遅くなるため育成が遅れ、収量が少なくなると

いわれている。

2 栽培技術体系

栽培技術体系の中で農家が特に重要視しているのは堆厩肥の施用である。アサツキ植付け時に堆厩肥を施用するとアサツキの根が堆厩肥にからまり収穫、調製作業が困難になるため前作のバレイショに2〜4トン投入している。前作バレイショに堆肥の投入量が少ないと、アサツキの葉が早くから黄変し、球根の肥大が悪く極端に減収するといわれている。従って、和牛または豚を数頭飼養し、あるいは安達町農協で運営している堆肥センターの利用や、畜産農家と、稲わらと厩肥との交換を行って、できるだけ多くの堆厩肥の施用に努めている。

種球は10a当り400kg植え付けているが、実際には各農家で採種も行っており、翌年10a作付ける場合、そのうちの2aを種球生産に当てている。

収穫は12月から始まり3月まで続けられるが、1月の価格が最も高く、以降は安くなる傾向にあり、52年は3月の平均価格が1月対比で61%であった。

労働時間は、種球掘り取りまで含めた全体の労働時間が410時間であるが、特徴的なことは収穫ならびに出荷に300時間、全体の73%の労働時間がかかるということである。

3 収益性

表1 経済収支総括表(系統出荷)

(10a当り)

	項 目	(1) 毎年種球を購入した場合の収支	(2) 自家産種球を使用した場合の収支	備 考
粗収益	販売数量(kg)	1,200	960	{ 次年の種球生産のため 2a分(240kg)を除く
	単価(円/kg)	367	367	
	粗収益(円)	440,400	352,320	
経 営 費	種苗費(円)	146,800	—	自給
	肥料費(円)	23,540	24,065	
	光熱動力費(円)	507	507	
	諸材料費(円)	700	700	
	農具費(円)	18,717	18,717	
	計(円)	190,264	43,989	
流通経費	手数料(円)	55,050	44,040	販売額の12.5% { ビニール小袋 240枚 ビニール大袋 60枚 ビニールテープ 1巻
	包装費(円)	3,700	2,760	
	運賃(円)	12,000	9,600	
	計(円)	70,750	56,400	
費用合計(円)		261,014	100,389	
収益性	所得(円)	179,386	251,931	
	所得率(%)	40.7	71.5	
	所要労力(人)	58	72	
	1日当り所得(円)	3,093	3,499	

表2 費用内訳

(10a当り)

種 目	品 名	単 価 (円)	使 用 量	金 額 (円)	備 考	
種 苗 費	種 球	1 kg 367	400 kg	146,800		
肥 料 費	苦 土 石 灰	20 kg 215	120 kg	1,290		
	り ん 硝 安 加 里	20 kg 1,500	160 kg	12,000		
	B M よ う り ん	20 kg 945	60 kg	2,835		
	石 灰 窒 素	20 kg 1,715	60 kg	5,145		
	尿 素	20 kg 1,135	40 kg	2,270		
	計			23,540		
光熱動力費	軽 潤 滑 油	1 ℓ 65	6 ℓ	390	軽油代の30%	
				117		
	計			507		
諸 材 料 費	な り 穫 コ ン テ ナ	1 玉 400	1 玉	400	5 年使用	
		1 個 750	2 個	300		
	計			700		
農 具 費	大 小 農 具			18,338		
				379		
	計			18,717		
出 荷 経 費	包装費	ビ ニ ー ル 小 袋	1 枚 7	300 枚	2,100	(販売量 1,200 kg)
		ビ ニ ー ル 大 袋	1 枚 18	75 枚	1,350	
		ビ ニ ー ル テ ー プ	1 巻 250	1 巻	250	
	手数料	農協, 経済連, 市場	販売額の12.5%		55,050	{ 経済連1.2%, 農協2.3% 市場9%
	運 賃	東 北 地 方	1 kg 10	1,200 kg	12,000	
	計				70,750	

収益性については表1のとおりである。表の中で(1)は毎年種球を全量購入した場合である。種球を400kg植え付けて生産量1,200kgというのが安達地方の平均である。農協出荷の場合の51年の平均単価(根付き)は367円であり、粗収益440,400円となる。経営費のうち種苗費は146,800円であるが、これは、実際には種球は売買がされていないため販売単価と同じ1kg当り367円として計算したものである(表2)。しかし、実際には前述のように農家は種球を自給しているため、その経済収支は表1の(2)のようになる。この場合、販売に向けるアサツキの収穫面積は8aとなり、収量は960kgである。そして2a分、240kg(5月の種球掘取時には400kgとなる)は翌年の種球となる。従って、粗収益352,300円、経営費44,000円、流通経費56,400円で、

所得が251,900円となる。

4 む す び

アサツキの経営的性格を要約すると、①収益面では、10a当り所得が約18万円、所得率41%であるが、実際には種球を自給しているので所得は約25万円と高くなる。②土地利用面では、アサツキ、バレイショ、桑との間には補合関係が成り立っている。③労働力面では、冬期の収穫、調製作業に多くの労力を要するが、収穫期間は長い。④収益性が比較的高いにもかかわらず、1戸当り栽培面積が10a内外と少ないのは、冬期間、基幹農従者が農外労働につくため、労力を多く要する収穫調製作業を老人や婦人で行っていることに起因している。